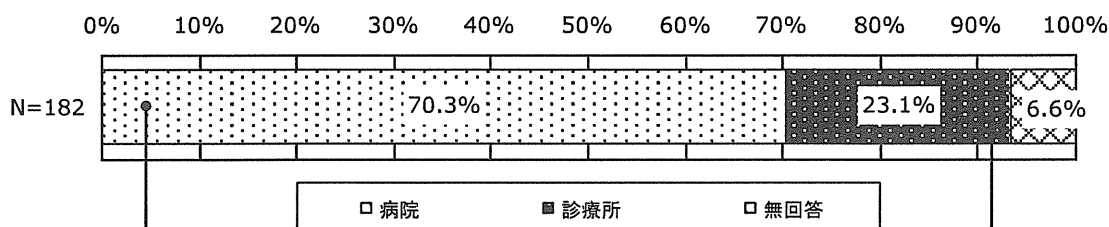


(2) 精神科訪問看護の実施状況

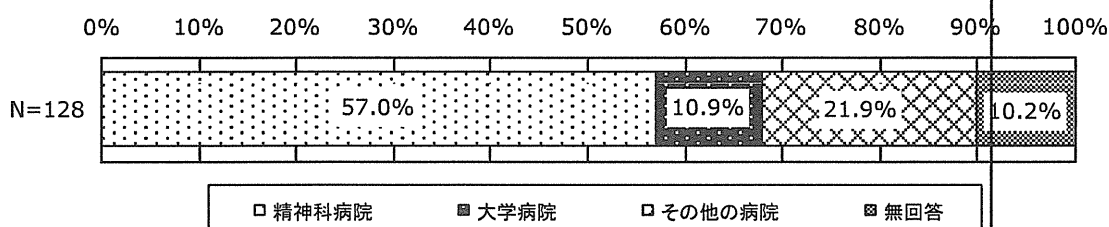
① 主治医の状況

主治医の医療機関をみると「病院」70.3%、「診療所」23.1%であった。主治医の医療機関が病院の場合に、その病院種類をみると「精神科病院」57.0%が最も多く、次いで「その他の病院」21.9%、「大学病院」10.9%となっていた。また、主治医の医療機関が診療所の場合に、その診療所の精神科の標榜状況をみると、「精神科が主」50.0%が最も多く、次いで「精神科なし」21.4%、「精神科あり」7.1%となっていた。

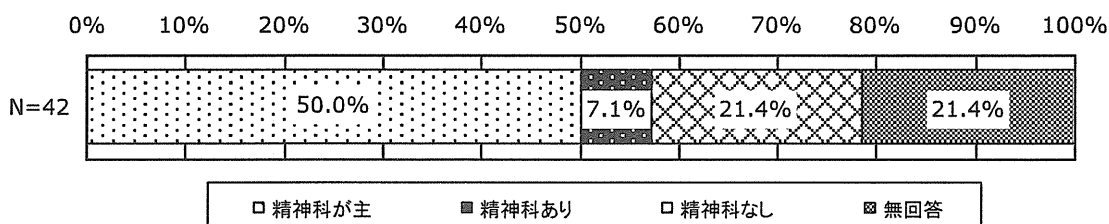
図表 3-33 主治医の医療機関



図表 3-34 主治医の医療機関（病院）の種類



図表 3-35 主治医の医療機関（診療所）の精神科の標榜状況

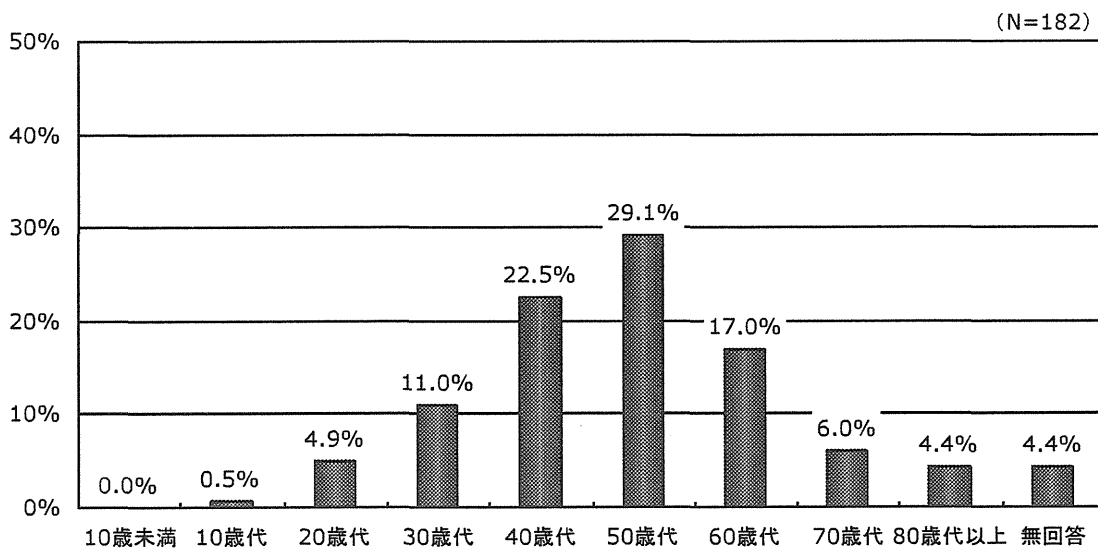


② 精神科訪問看護の実施状況

■ 訪問看護開始時の年齢

訪問看護開始時の年齢をみると、「50 歳代」29.1%が最も多く、次いで「40 歳代」22.5%、「60 歳代」17.0%などとなっていた。

図表 3-36 訪問看護開始時の年齢

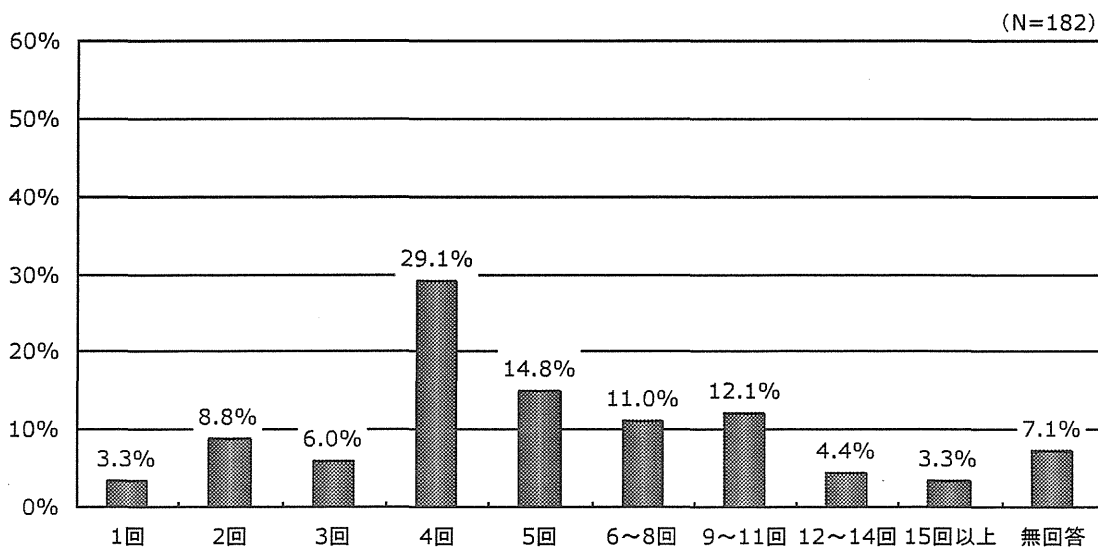


■ 平成24年10月1カ月間の訪問看護の実施状況

《訪問回数》

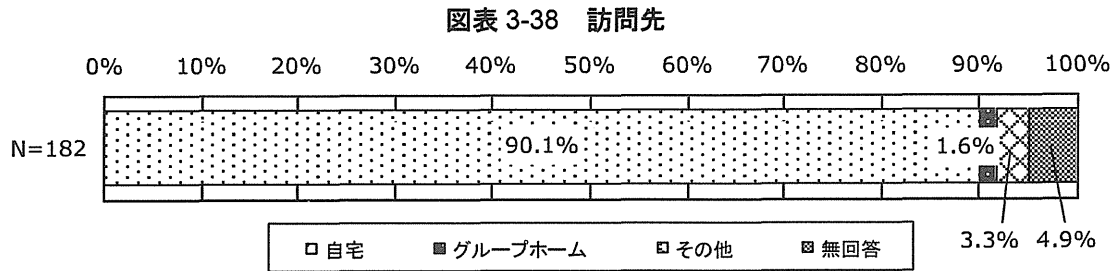
平成24年10月1カ月間の訪問回数は平均5.7回（うち複数名訪問0.4回）（N=169）であった。なお、複数名訪問看護加算1の算定回数は平均0.3回（N=169）、複数名訪問看護加算2の算定回数は平均0.1回（N=169）であった。

図表 3-37 1カ月間の訪問回数



《訪問先》

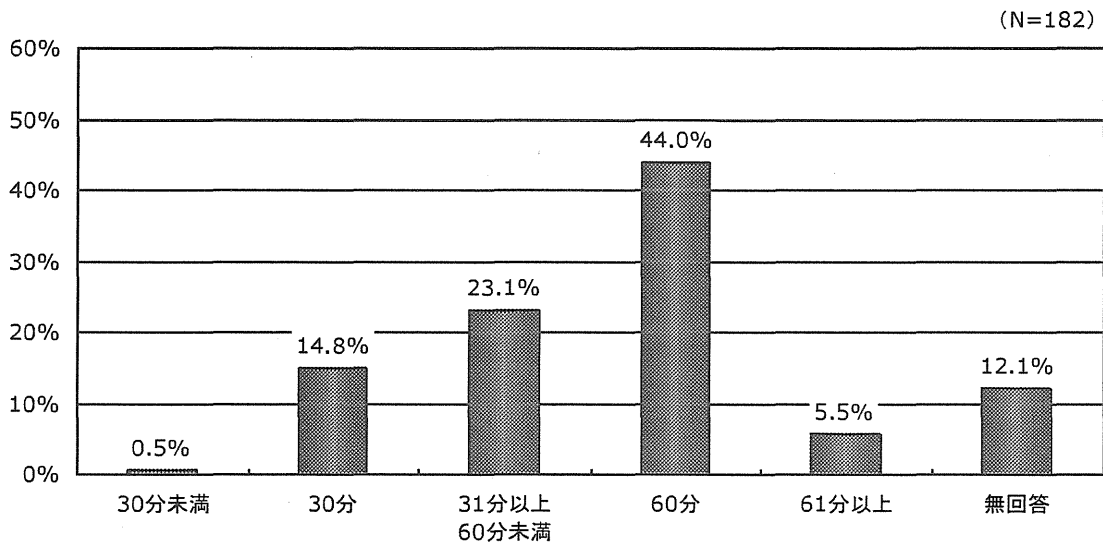
訪問先としては「自宅」が90.1%であった。



《訪問1回当たりの滞在時間》

訪問1回当たりの平均滞在時間は52.4分(N=160)であった。「60分」44.0%が最も多く、次いで「31～60分未満」23.1%、「30分」14.8%などとなっていた。

図表 3-39 訪問1回当たり平均滞在時間



《電話相談》

電話相談の状況をみると、「本人から」が21.4%であった。本人からの電話相談は1カ月当たり平均6.8回、49.0分の相談があった。その一方で、「(電話相談)なし」も55.5%であった。

図表 3-40 電話相談の状況

	利用者数	割合	平均回数/月	平均時間/月
本人から	39人	21.4%	6.8回	49.0分
家族から	14人	7.7%	1.4回	16.8分
その他	7人	3.8%	2.7回	71.3分
なし	101人	55.5%		
無回答	34人	18.7%		
総数	182人			

《回答事業所による訪問看護以外に利用しているサービス》

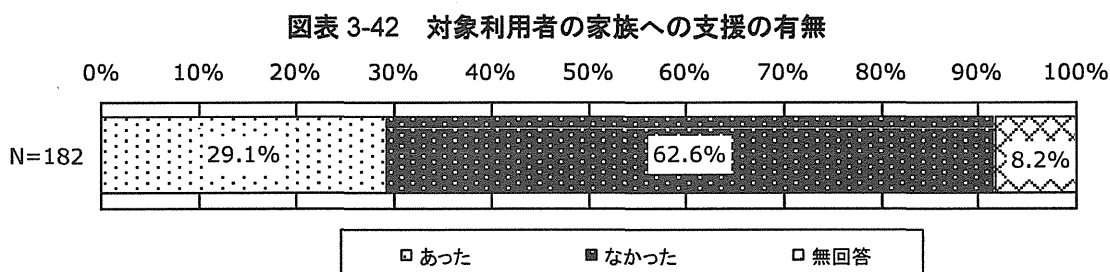
回答事業所による訪問看護以外に利用しているサービスとしては、「ホームヘルプサービス」31.9%が最も多く、次いで「デイケア、デイナイトケア、ナイトケア」17.6%、「作業所など日中の活動の場」12.6%などであった。

図表 3-41 回答事業所による訪問看護以外に利用しているサービス【MA】

	利用者数	割合	平均回数/週
デイケア、デイナイトケア、ナイトケア	32人	17.6%	2.6回
グループホームなど共同住居での援助	5人	2.7%	—
作業所など日中の活動の場	23人	12.6%	2.9回
地域生活支援センターなど集う場所	11人	6.0%	1.6回
就労支援	4人	2.2%	4.3回
ホームヘルプサービス	58人	31.9%	3.3回
回答事業所以外からの訪問看護	5人	2.7%	2.0回
その他	23人	12.6%	1.8回
総数	182人		

(3) 利用者の家族への支援の状況

平成 24 年 10 月 1 カ月間における利用者の家族への支援の有無についてみると、「あった」29.1%、「なかった」62.6%であった。



具体的な家族への支援内容は、以下の通りであった。なお、以下各項目内のゴシック体は、実際のデータを示す。

①利用者に対する具体的支援方法についてのアドバイス

訪問時には、利用者だけでなく家族も一緒にまたは個別に話を聞き、利用者と家族の関係性に応じてアドバイスをしていた。具体的には、生活を維持するための睡眠や食事に関するアドバイス、家族関係改善のための利用者への接し方、利用者を尊重した態度などに関するアドバイスを行っていた。

- ・訪問時には必ず、家族と話す時間を設け、訴えを聞くようにしている。イライラ時の対応、睡眠時間・リズムを崩さないような食事のタイミング、など生活を維持するうえで、必要なアドバイスを実施している。又、父親との関係が改善されるよう、父親へ、対応、態度等、接し方のアドバイスを実施している。
- ・訪問時、本人と共に母親を混じえて対話。母親は、社会的な体裁を気にされ、本人の通院交通機関の利用や買物など、外出することに非協力的、本人の生活を拘束している感あり、本人の意志を尊重し、見守られる姿勢、態度で接する様にアドバイスをしている。

②対象者と家族のコミュニケーション支援

利用者に、妄想に左右された言動や暴言暴力、陰性症状など、家族にとってストレスとなる言動がある場合や、家族が高 EE である場合等に、利用者と家族の関係性がこじれる場合があった。そのため、支援者が双方の話を傾聴し、代弁者となり相手に伝え、関係調整をしていた。また、同居していない家族に対して情報を伝え、家族が利用者の状況を理解しやすいように介入していた。

- ・本人の妄想から、姉の子供に電話をかけて「私を殺さないか」と子供に言うため、姉が怒り、本人へ暴言を言われた。本人もカッとなって喧嘩となった。仲裁に介入した。
- ・父親への暴言や軽度の暴力があり、父親の状態を確認するため訪問。本人は屯服を内服し、落ち着いているが母親が本人に対して暴言を発するため、訪問し、本人、母親、父親と共に話をした。

その後、母親の思いを、再度傾聴する事で母の興奮状態も改善。この間の電話を含め 3 時間 30 分。

③利用者以外の精神障害を持つ同居家族に対するケア

統合失調症である訪問利用者以外にも、統合失調症やアルコール依存症、認知症、発達障害などの精神障害を持つ家族が一人または複数いる家族があった。診断名がついているケースだけでなく、未受診で精神保健福祉サービスを受けてはいないが、精神障害があると推測されるケースもあった。その精神障害を持つ家族に対する具体的ケアでは、精神面・身体面の確認、内服や食事摂取状況の確認・指導、声かけ、利用者とその家族の関係調整、関係機関への連絡などを行っていた。

- ・息子も同疾患であり、体調・精神面に波がある。お互いに影響しあっている状態であるため息子の体調・精神面の確認を毎回している。本人の介護も行っているため、負担になっていないか、どのようにすれば負担軽減になるか、一緒に考えている。
- ・同居の母も当訪問看護師看護利用中（隔週 1 回、認知症）。時々（月 1 回程度のペース）アルコール依存傾向な状況が影響するのか、対象利用者の息子や週 2 回通所しているデイサービスで、暴言等でトラブルとなることがあり、そのつど訪問看護や母の担当ケアマネと共に仲裁に入っている。トラブルについて息子の心配や不安は続いているが、精神状況に影響することは少ない様子。
- ・訪問看護の対象者は本人のみであるが、その夫統合失調症、義母、診断はされていないが精神障害あり。本人は児を出産（初産）直後であるため、育児に伴うことも含めてケア、支援を提供している。

④家族の身体面を含めた包括的ケア

介護を行っている両親（特に母親）や配偶者が高齢で、高血圧や体調不良、物忘れにて家族自身がケアを必要としている場合が多かった。そのため、バイタル測定などを含めた健康状態のモニタリング、家族の内服管理、異常時の家族の受診の手配、清潔ケア、生活指導、困りごとに関する助言などを行っていた。

- ・介護者（妻）が体調を心配されている為、毎回バイタルチェックを行ない記録をしてくる。血圧が低い値が 9～10 月頃続いていたため家族に受診時主治医に相談をしてもらい薬の調整にて元にもどった。本人や家族の困った事に相談に乗り、助言を行なっている。
- ・主に介護されている母が物忘れ多くなり、母自身の内服管理あいまいとなり、確認行う。父も要介護状態となり、清潔ケア・病状管理目的で訪問行う。
- ・母親が主介護者ですが高齢（82 才）にて血圧チェック施行。訪問時 190 代にて長女に連絡し受診してもらった。

⑤対象者への介護を行う家族へのエンパワメント支援

訪問時に家族が同席をする場合と、介護を行っている家族に個別に電話や面接を行う場合

があった。家族にイラつき、不安・心配、過干渉などが見られることが多かったため、患者だけでなく、家族からの情報や訴えを傾聴し、疾患が理解できるように症状や今後の見通しについて説明し、家族の要望も確認するなどし、精神的負担の軽減を行っていた。同居していない家族に対しても、電話や連携ノートなどを通して、情報提供や助言、要望確認などを行っていた。

- ・母親が対象者に対し干渉しすぎであり、本人が自分の考えを発言する前に母親が言葉にしてしまう傾向があった。また病気に対しての不安や心配があったので、母親とのコミュニケーションを取り傾聴に努めた。
- ・利用者が依存的なため、家事全般母が行っている。母もストレスがたまっているので母の相談にものる。
- ・訪問後に家族とも会い、最近の様子や変化がないか確認し、こちらからも体調面や精神症状について気づいたことを伝え、何か対応が必要な時は相談している。(本人も了解している)

⑥対象者の社会資源利用への支援

施設入所や作業所、ヘルパー利用、障害年金受給について、家族から相談を受ける場合や、支援者から提案する場合があります。家族とともに将来設計を行いながら、社会資源の利用を検討していた。

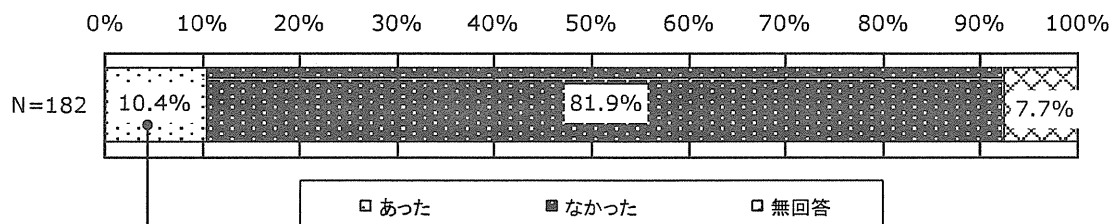
- ・息子さん同居で有るが夜勤及び外泊(同棲者あり)する事も多く独居での生活状況にて生活環境及び食事コントロール等ヘルパー利用提案している
- ・80代後半の高齢な母親と二人暮らし、患者の今後の事を考え障害年金受給の手続きを取るよう勧めている。

(4) 患家以外の訪問の実施状況

平成 24 年 10 月 1 カ月間における患家以外の訪問の必要性の有無についてみると、「なかった」81.9%、「あった」10.4%であった。

また、患家以外の訪問の必要だった理由については、「通院支援のため」42.1%が最も多く、次いで「買物支援のため」26.3%、「役所等での手続支援のため」21.1%などとなっていた。

図表 3-43 患家以外の訪問の必要性の有無（平成 24 年 10 月）



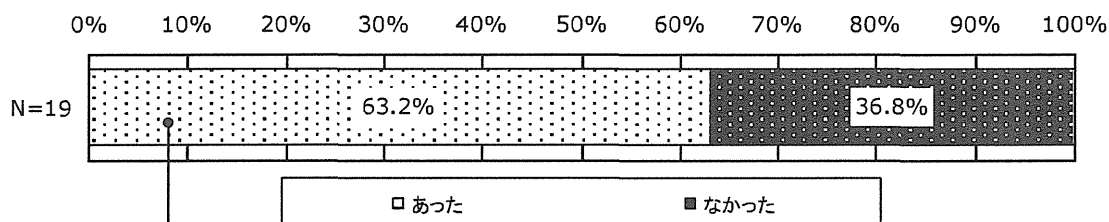
図表 3-44 患家以外の訪問が必要だった理由【MA】

理由	利用者数	割合
通院支援のため	8 人	42.1%
買物支援のため	5 人	26.3%
役所等での手続支援のため	4 人	21.1%
送迎支援のため	3 人	15.8%
就労支援のため	1 人	5.3%
その他の付添のため	3 人	15.8%
その他	4 人	21.1%
総 数	19 人	

さらに、平成 24 年 10 月 1 カ月間における患者以外の訪問の実施の有無についてみると、「あった」63.2%、「なかった」36.8%であった。

また、患者以外の訪問をした理由については、「通院支援のため」41.7%が最も多く、次いで「買物支援のため」33.3%、「役所等での手続支援のため」25.0%などとなっていた。

図表 3-45 患者以外の訪問の実施の有無の有無（平成 24 年 10 月）



図表 3-46 患者以外の訪問をした理由【MA】

	利用者数	割合
通院支援のため	5	41.7%
買物支援のため	4	33.3%
役所等での手続支援のため	3	25.0%
送迎支援のため	1	8.3%
就労支援のため	0	0.0%
その他の付添のため	3	25.0%
その他	3	25.0%
総 数	12	100.0%

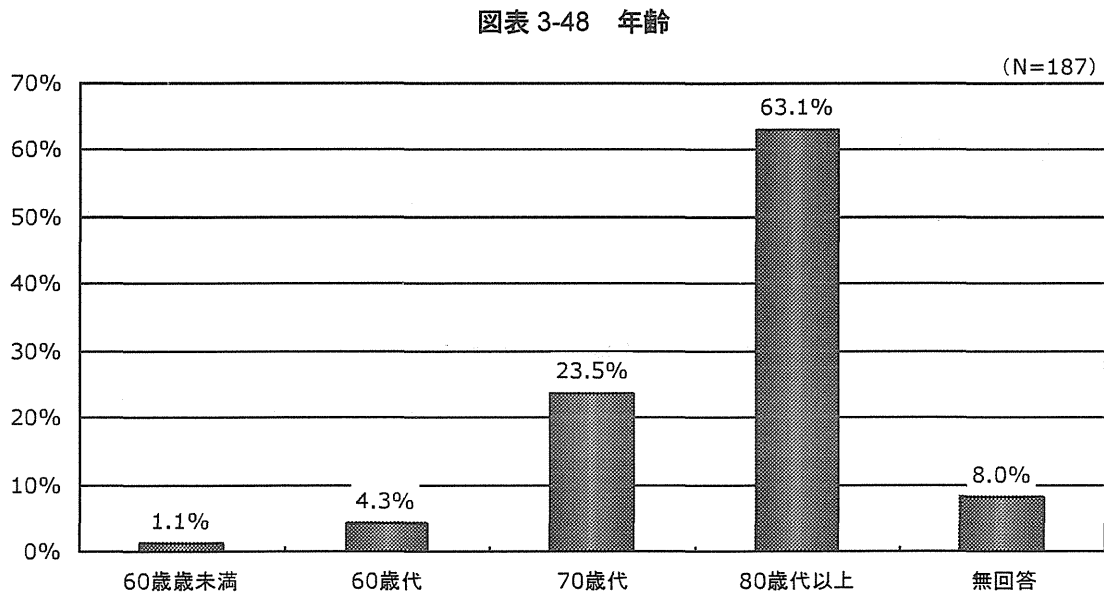
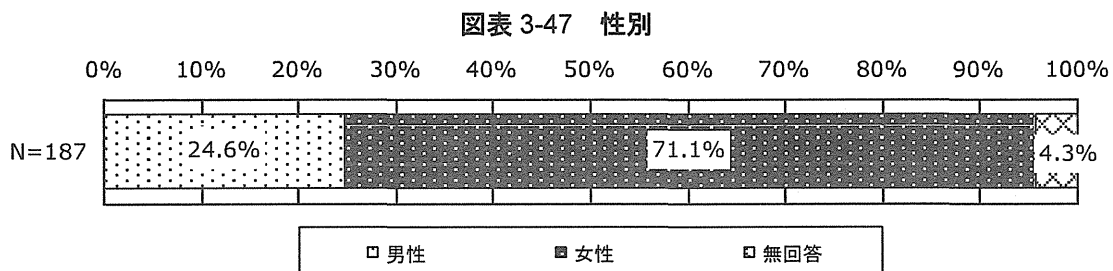
5) 認知症の利用者の状況

平成 24 年 10 月 1 カ月間に回答事業所が精神科訪問看護を実施した利用者（1 事業所当たり最大 2 名、原則として認知症を主傷病とする者に限定した）187 名の属性についてみる。

(1) 基本的な属性

① 性別・年齢

性別は「男性」24.6%、「女性」71.1%であった。また、年齢は「80 歳代以上」63.1%が最も多く、次いで「70 歳代」23.5%、「60 歳代」4.3%などとなっていた。

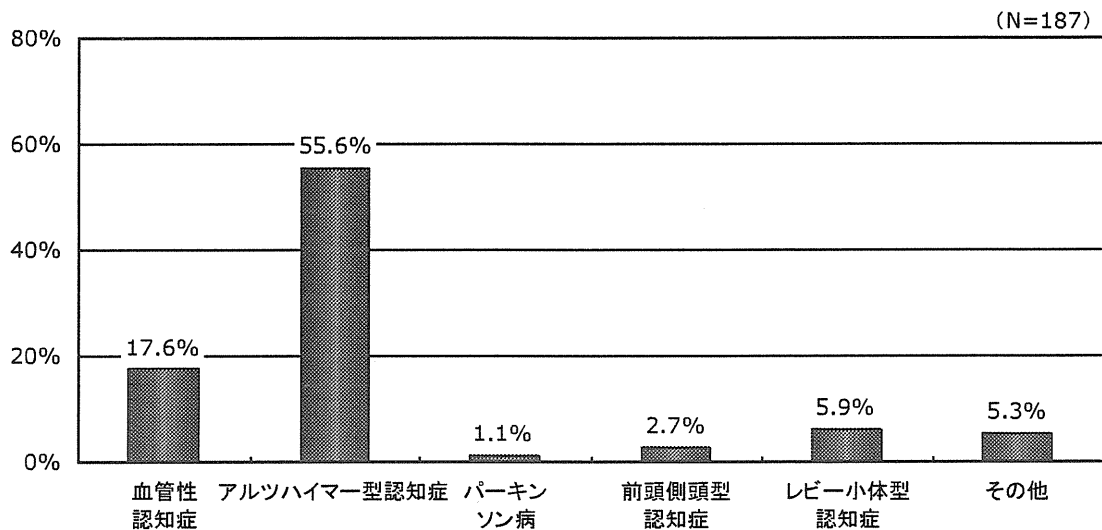


② 精神疾患の状況

■ 診断名

診断名（副たる診断名を含む）についてみると、「アルツハイマー型認知症」55.6%が最も多く、次いで「血管性認知症」17.6%、「レビー小体型認知症」5.9%などとなっていた。

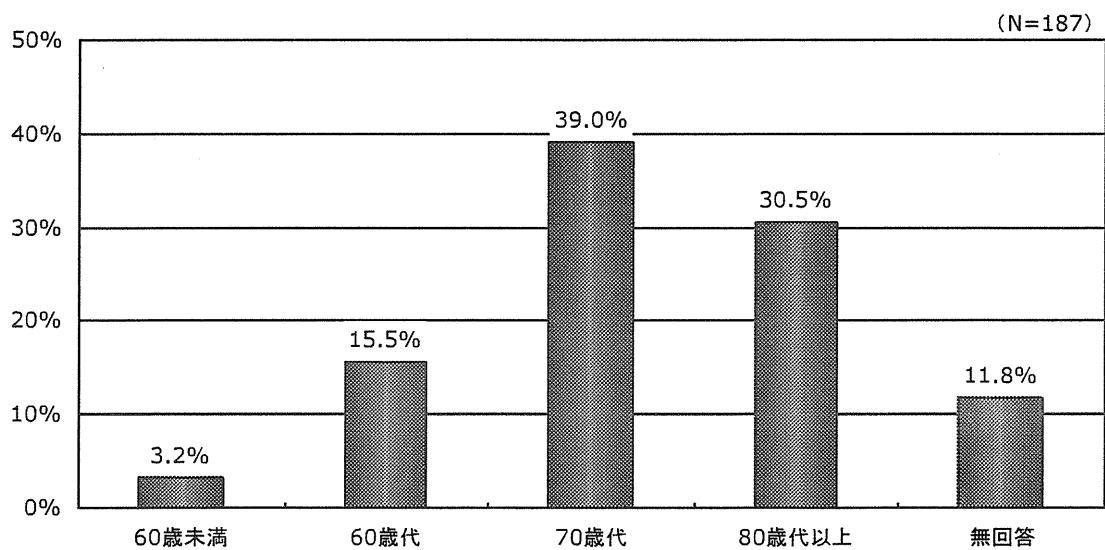
図表 3-49 診断名



■ 認知症の発症年齢

認知症の発症年齢をみると「70歳代」39.0%が最も多く、次いで「80歳代以上」30.5%などとなっていた。

図表 3-50 認知症の発症年齢

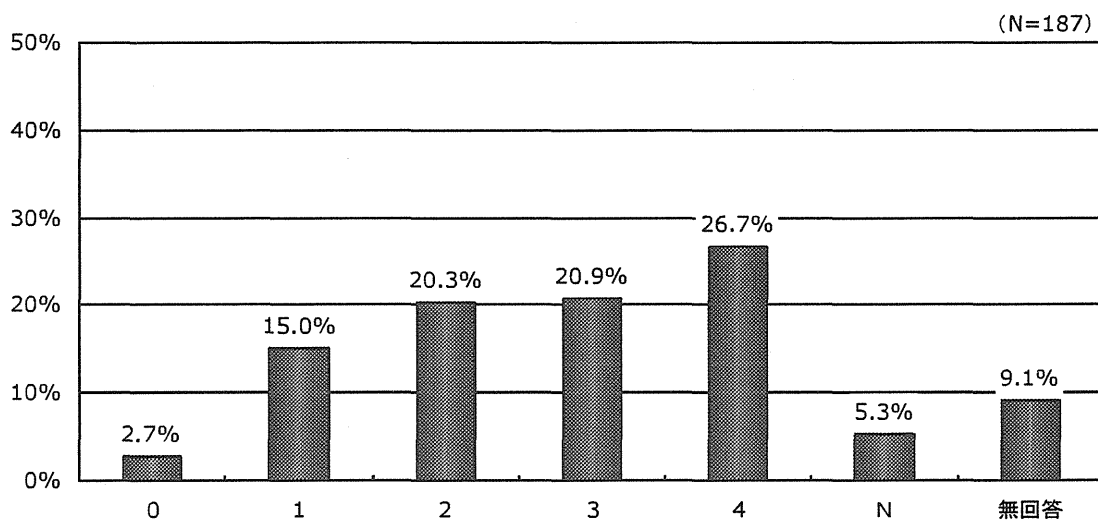


③ 症状の程度・状態像

■ 認知機能の障害に伴う日常生活状態の判定基準（ADL-Cog）

認知機能の障害に伴う日常生活状態の判定基準（Adl-Cog）をみると、「4」26.7%が最も多く、次いで「3」20.9%、「2」20.3%などとなっていた。

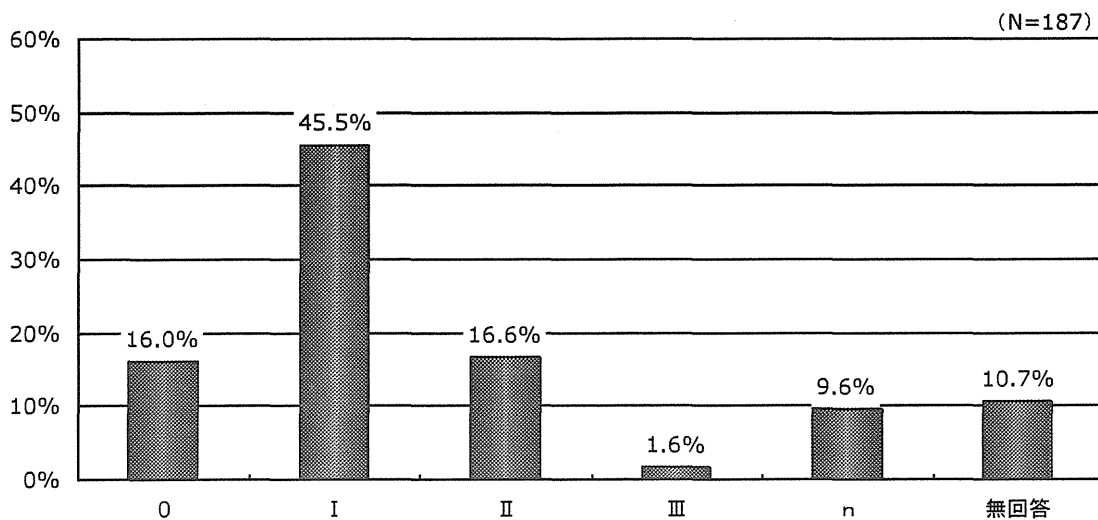
図表 3-51 認知機能の障害に伴う日常生活状態の判定基準（ADL-Cog）



■ 認知機能の障害に伴う行動・心理症状評価表（BPS-Cog）

認知機能の障害に伴う行動・心理症状評価表（BPS-Cog）をみると、「I」45.5%が最も多く、次いで「II」16.6%、「0」16.0%などとなっていた。

図表 3-52 認知機能の障害に伴う行動・心理症状評価表（BPS-Cog）

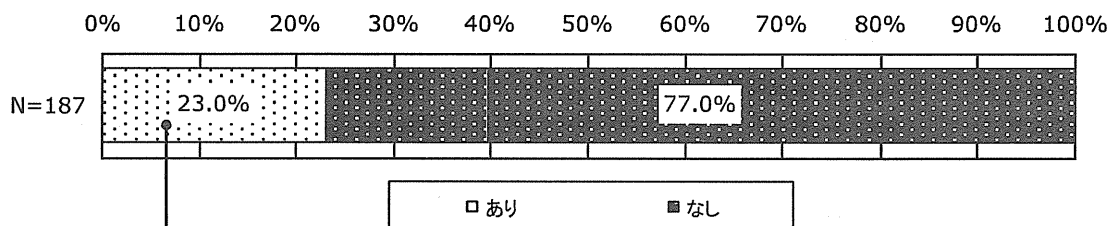


④ 合併症の状況

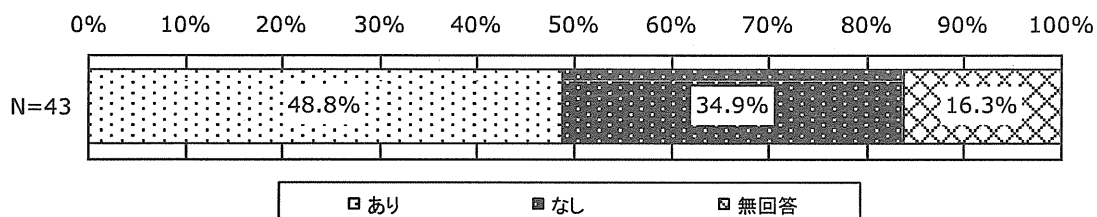
■ 糖尿病

糖尿病の合併の有無をみると「あり」が23.0%であった。また、糖尿病を合併している者の48.8%が服薬又はインスリン注射を行っていた。

図表 3-53 糖尿病の合併の有無



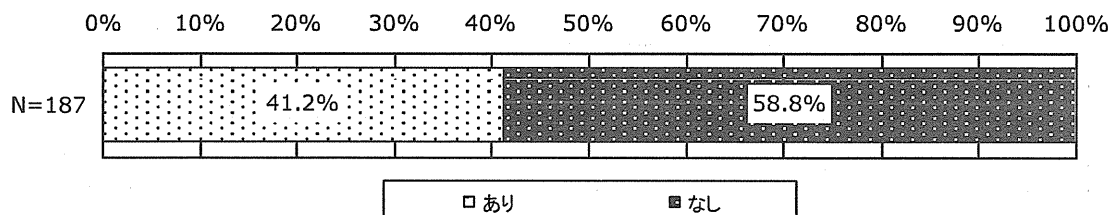
図表 3-54 服薬又はインスリン注射の有無



■ 高血圧

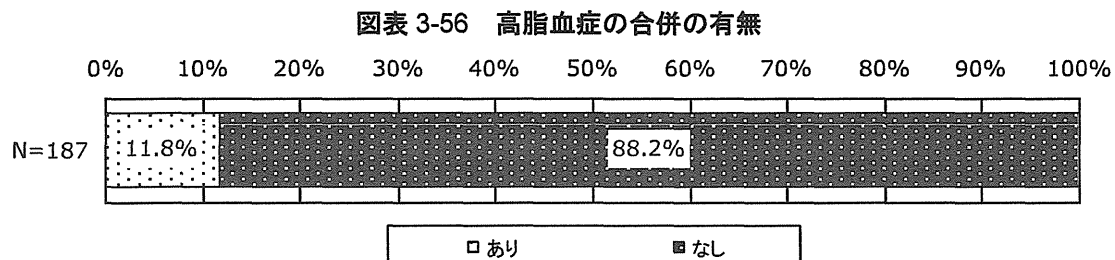
高血圧の合併の有無をみると「あり」が41.2%であった。

図表 3-55 高血圧の合併の有無



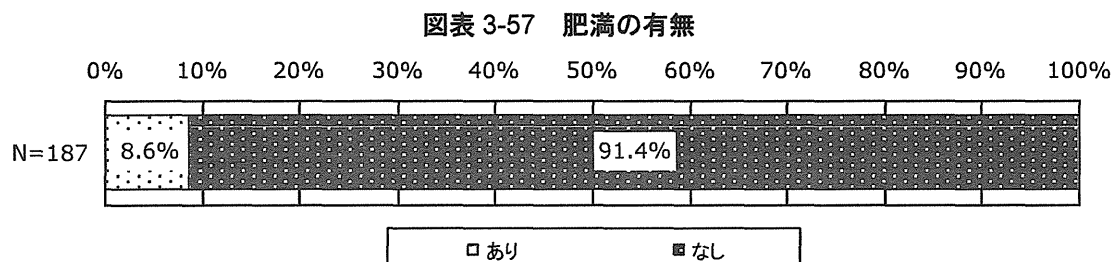
■ 高脂血症

高脂血症の合併の有無をみると「あり」が11.8%であった。



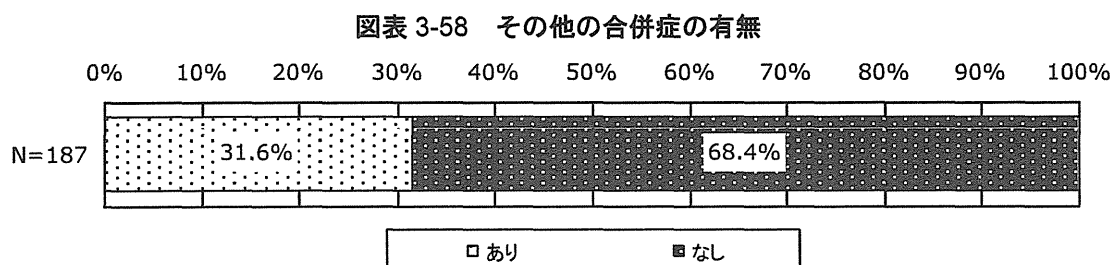
■ 肥満

肥満について「あり」が8.6%であった。



■ その他の合併症

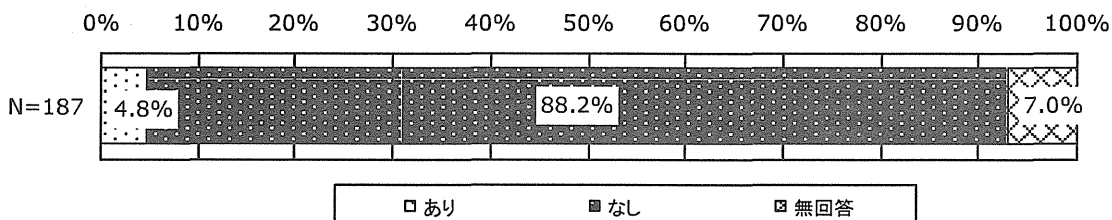
その他の合併症について「あり」が31.6%であった。



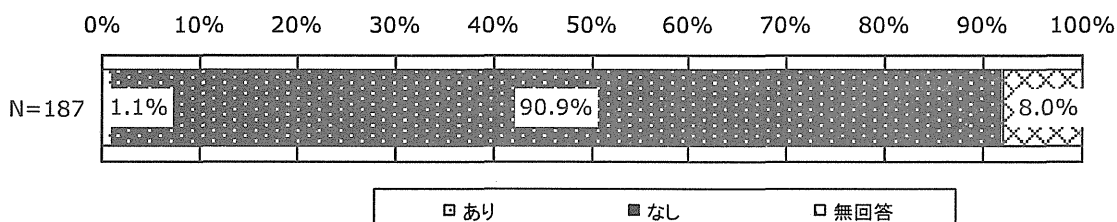
⑤ 精神科入院の状況

過去の精神科入院経験について「あり」が4.8%で、平均入院回数は1.3回(N=8)であった。また、過去1年間の精神科入院経験については「あり」が1.1%で、平均入院回数は2.0回(N=1)であった。

図表 3-59 過去の精神科入院経験



図表 3-60 過去1年間の精神科入院経験



⑥ 保険の種類

保険の種類としては「介護保険」が86.6%であった。

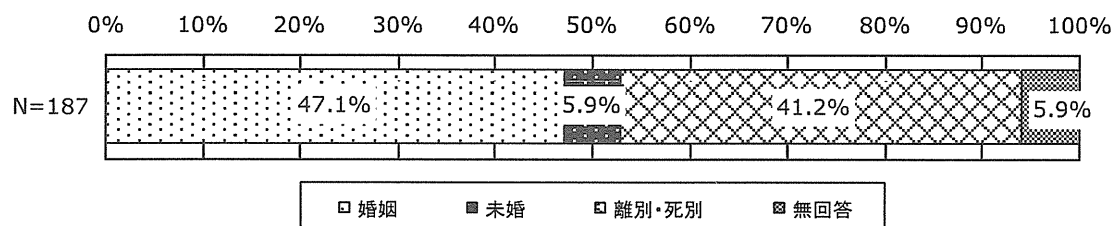
図表 3-61 保険の種類

		人 数	割 合
医療保険	精神科訪問看護基本療養費Ⅰ	3人	1.6%
	精神科訪問看護基本療養費Ⅱ	0人	0.0%
	精神科訪問看護基本療養費Ⅲ	0人	0.0%
	精神科訪問看護基本療養費Ⅳ	0人	0.0%
	訪問看護基本療養費Ⅰ	9人	4.8%
	訪問看護基本療養費Ⅱ	0人	0.0%
	訪問看護基本療養費Ⅲ	0人	0.0%
	訪問看護基本療養費Ⅳ	0人	0.0%
	無回答	2人	1.1%
	介護保険	要支援1	3人
要支援2		0人	0.0%
要介護1		35人	18.7%
要介護2		38人	20.3%
要介護3		26人	13.9%
要介護4		20人	10.7%
要介護5		27人	14.4%
無回答		13人	7.0%
その他	0人	0.0%	
無回答	11人	5.9%	
総 数		187人	

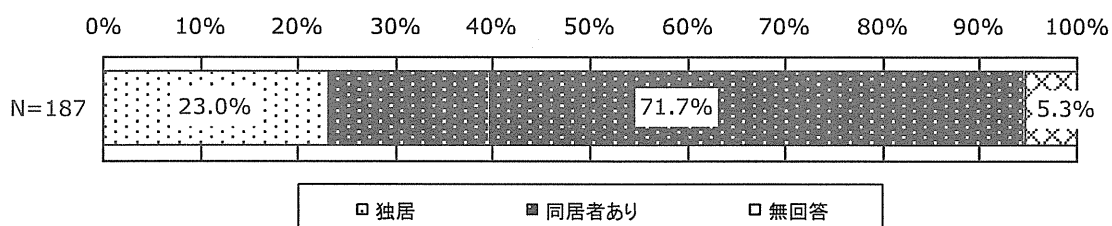
⑦ 婚姻・居住・就労の状況

婚姻状況を見ると「婚姻」47.1%、「離別・死別」41.2%などであった。世帯状況は「同居者あり」71.7%、「独居」23.0%であった。居住形態は「持ち家」76.5%、「賃貸住宅」18.2%であった。就労の状況は「(就労)なし」が92.0%であった。

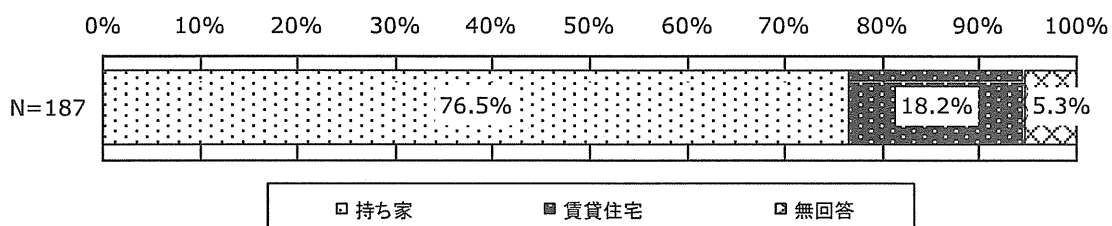
図表 3-62 婚姻



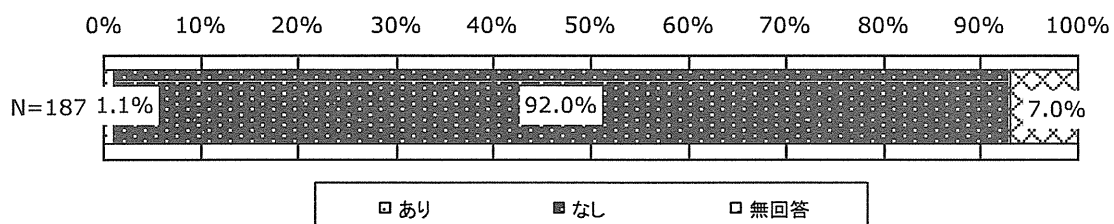
図表 3-63 世帯状況



図表 3-64 居住状況



図表 3-65 就労状況



(2) 精神科訪問看護の実施状況

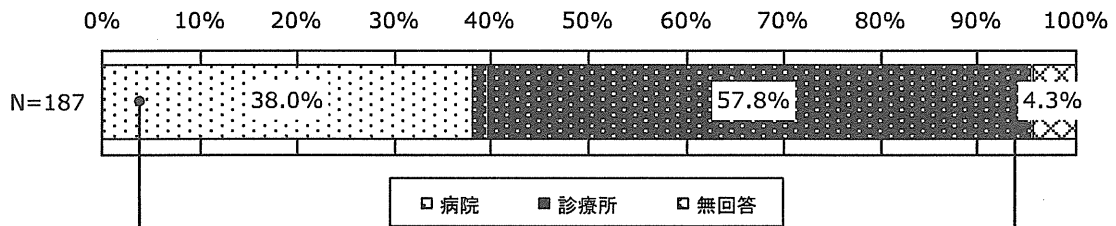
① 主治医の状況

主治医の医療機関をみると「病院」38.0%、「診療所」57.8%であった。

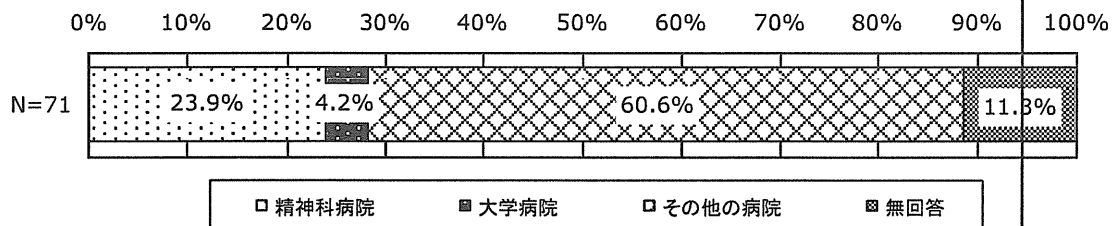
主治医の医療機関が病院の場合に、その病院種類をみると「その他の病院」60.6%が最も多く、次いで「精神科病院」23.9%、「大学病院」4.2%となっていた。

また、主治医の医療機関が診療所の場合に、その診療所の精神科の標榜状況をみると、「精神科なし」80.6%が最も多く、次いで「精神科が主」9.3%、「精神科あり」3.7%となっていた。

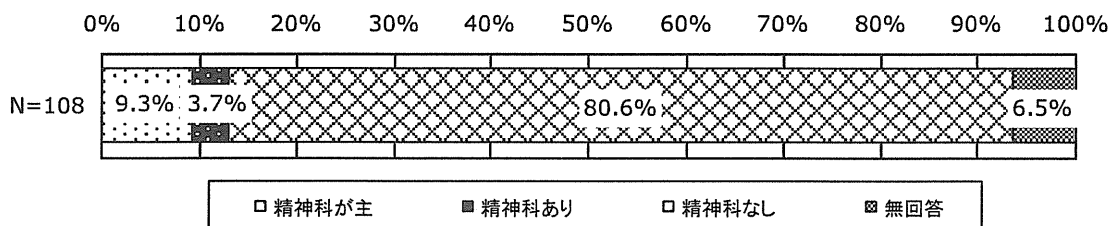
図表 3-66 主治医の医療機関



図表 3-67 主治医の医療機関（病院）の種類



図表 3-68 主治医の医療機関（診療所）の精神科の標榜状況

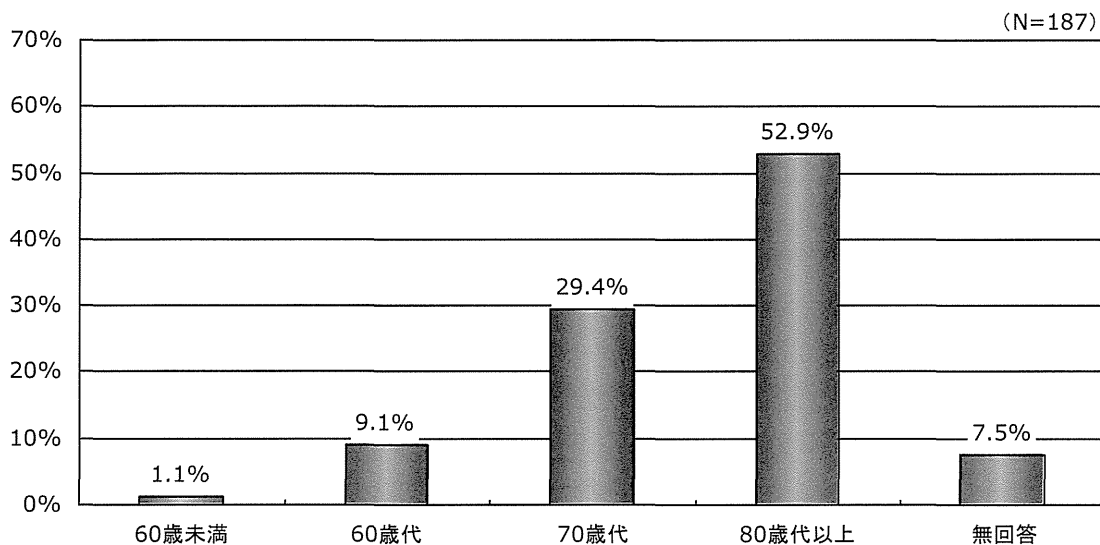


② 精神科訪問看護の実施状況

■ 訪問看護開始時の年齢

訪問看護開始時の年齢をみると、「80歳代以上」52.9%が最も多く、次いで「70歳代」29.4%、「60歳代」9.1%などとなっていた。

図表 3-69 訪問看護開始時の年齢



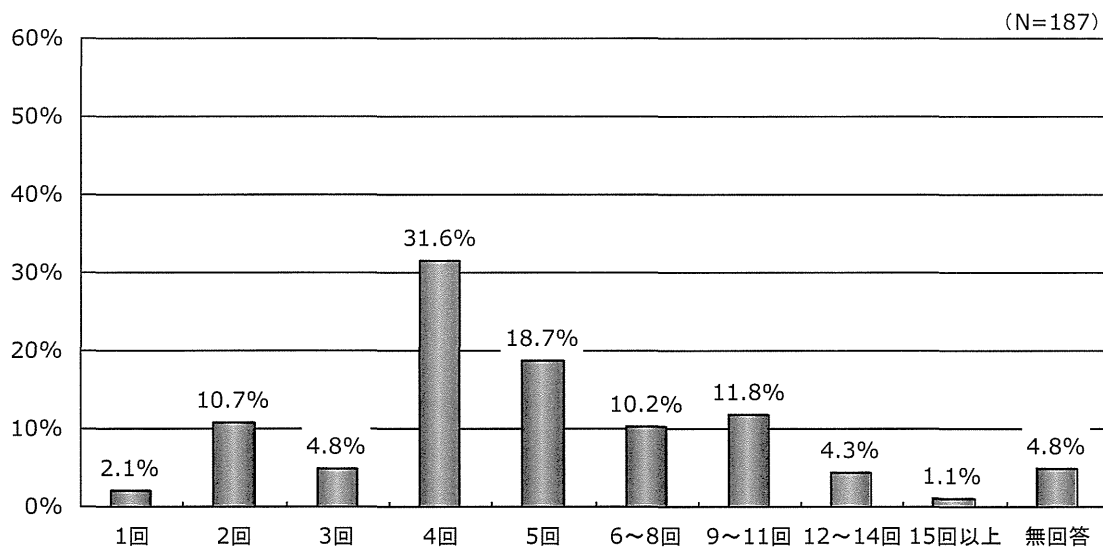
■ 平成24年10月1カ月間の訪問看護の実施状況

《訪問回数》

平成24年10月1カ月間の訪問回数は平均5.5回（N=178）であった。

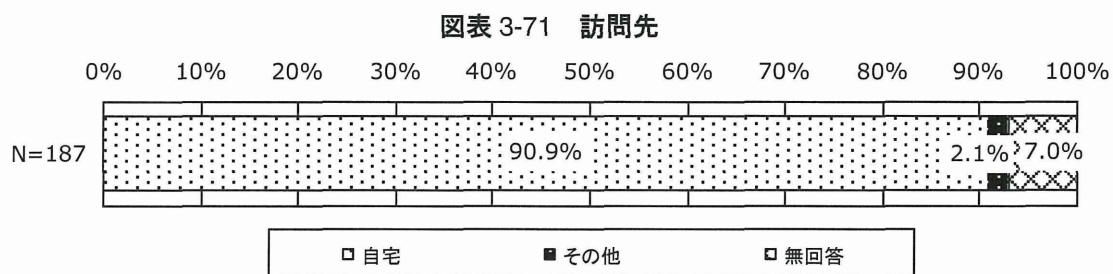
なお、複数名訪問看護加算の平均算定回数は0.1回（N=150）であった。

図表 3-70 1カ月間の訪問回数



《訪問先》

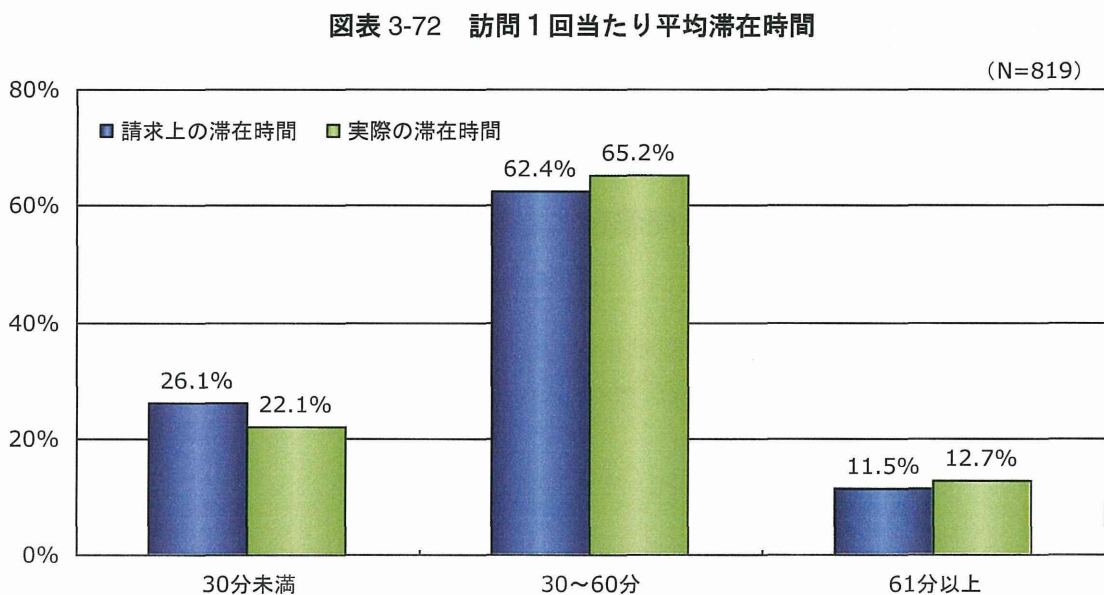
訪問先としては「自宅」が90.9%であった。



《訪問1回当たりの滞在時間》

訪問1回当たりの滞在時間をみると「30～60分」が最も多くなっており、請求上の滞在時間よりも実際の滞在時間の方が若干長くなっていた。

なお、長時間訪問看護加算の平均算定回数は0.0回（N=146）であった。



《電話相談》

電話相談の状況をみると、「家族から」が13.4%であった。家族からの電話相談は1カ月当たり2.0回、22.6分の相談があった。

その一方で、「(電話相談) なし」も43.9%であった。

図表 3-73 電話相談の状況

	利用者数	割合	平均回数/月	平均時間/月
本人から	5人	2.7%	3.2回	16.7分
家族から	25人	13.4%	2.0回	22.6分
その他	23人	12.3%	1.8回	19.8分
なし	82人	43.9%		
無回答	47人	25.1%		
総数	187人			

《回答事業所による訪問看護以外に利用しているサービス》

回答事業所による訪問看護以外に利用しているサービスとしては、「デイサービス・デイケア」42.8%が最も多く、次いで「ホームヘルプサービス」33.7%などであった。

図表 3-74 回答事業所による訪問看護以外に利用しているサービス【MA】

	利用者数	割合	平均回数/週
ホームヘルプサービス	63人	33.7%	5.1回
訪問入浴介護	14人	7.5%	1.4回
訪問リハビリ	7人	3.7%	1.7回
デイサービス・デイケア	80人	42.8%	2.6回
ショートステイ	16人	8.6%	2.1回
回答事業所以外からの訪問看護	3人	1.6%	2.0回
訪問型個別生活支援	1人	0.5%	2.0回
その他	11人	5.9%	2.4回
総数	187人		